第7回 琉大ゲノミクス解析支援チーム 公開セミナー

会場: 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3F会議室

日時:11月14日(火) 15:00~

15:00 ~ 16:20 Dr. Christian Leipe (Free University of Berlin)

Title; Archaeobotanical records from the Hamanaka 2 site: Indications for the subsistence economy of Okhotsk culture groups on Rebun Island

使用言語:英語

北方圏における人類生態史総合研究拠点プログラム(http://nt.cais.hokudai.ac.jp/jp/)で現在発掘されている、礼文島浜中2遺跡の植物遺存体・花粉分析から、オホーツク人の農耕の可能性について話して頂きます。DNA解析の話ではありませんが、今後、eDNAや花粉からのDNA解析を行いたいということで、地質学・生態学・DNA解析など様々な分野の方の意見を頂けると幸いです。

16:40~18:00 重信秀治 特任准教授 (基礎生物学研究所)

タイトル;次世代シーケンシング時代の昆虫ゲノミクス

使用言語:日本語

次世代シーケンシングに関する話題を比較的基礎的な事から話して頂くとともに,主にアブラムシとシロアリの興味深い現象についてゲノミクス的観点から得られた研究成果をお話し頂く予定です。

*いずれかの講演だけの聴講も可能です。

問い合わせ先:熱帯生物圏研究センター 矢口甫 email: hjiroo@gmail.com

琉大ゲノミクス解析支援チーム 公開セミナー

第7回

Free University of Berlin

Dr. Christian Leipe

Archaeobotanical records from the Hamanaka 2 site : Indications for the subsistence economy of Okhotsk

culture groups on Rebun Island

Archaeobotanical analysis at the Hamanaka 2 archaeological site (Rebun Island, Hokkaido Prefecture) provides a new record of naked barley and its possible use in the economy of the Okhotsk culture of northern Japan during 5-10th century AD. Numerous barley grains dated by the AMS radiocarbon method suggest that the Okhotsk communities of northern Japan, traditionally viewed as pure hunter-fishergatherers, likely developed a more complex economy with elements of agriculture. Morphological characteristics of the barley seeds from Rebun Island and comparative analysis results further suggest that the appearance of naked barley (Hordeum vulgare var. nudum) in the northern Hokkaido region is closely connected with the Russian Far East region. On the other hand, hulled barley, associated with Satsumon culture sites of central and southern Hokkaido, was likely dispersed by cultural influence from central and southern Japan. As suggested archaeobotanical and palynological analyses, human impact/activities on Rebun Island have been generally stronger during the Okhotsk culture occupation in comparison to preceding (Epi-Jomon) and subsequent (Satsumon/Ainu) cultural phases.

11月14日(火) 15:00-16:20

琉球大学 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3F 会議室

※ ご参加・聴講は自由です (事前申し込み不要)

皆様のご来聴を歓迎いたします。

お問い合わせ先:熱帯生物圏研究センター 矢口甫

hjiroo@gmail.com

主催:戦略的研究プロジェクトセンターゲノミクス解析支援チーム

琉大ゲノミクス解析支援チーム 公開セミナー

第7回

基礎生物学研究所・生物機能解析センター



重信秀治 特任准教授

次世代シーケンシング時代の昆虫ゲノミクス

次世代シーケンシング(NGS)技術は、多方面の生命科学分野に革命的な影響を与えているが、地球上で最も多様性に富む生物群とも言われる昆虫の研究分野も例外ではない。NGSを活用して、それぞれの昆虫特有の興味深い形態や生理などの進化を遺伝子・ゲノムレベルで明らかにする研究が急速に発展している。本講演の前半では、NGSの最新動向を紹介するとともに、NGSを利用した昆虫のゲノム解読法についてテクニカルな面から議論する。後半では、昆虫ゲノミクス研究の中から、アブラムシやシロアリなどの特定のゲノムプロジェクトをとりあげ、共生や社会性などそれぞれの昆虫に特有の形質の進化が、ゲノム解読によってどのように説明できるようになったのかを議論する。





11月14日(火) 16:40-18:00

琉球大学 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3F 会議室

※ ご参加・聴講は自由です (事前申し込み不要)

皆様のご来聴を歓迎いたします。

お問い合わせ先:熱帯生物圏研究センター 矢口甫

hjiroo@gmail.com

主催:戦略的研究プロジェクトセンターゲノミクス解析支援チーム